多古中図書館だより

令和元年９月号
多古町学校司書

９月は元気いっぱいの体育祭で始まりました。その後、大きな台風１５号が千葉県を襲い、多古町にも甚大な被害をもたらしました。停電や断水で、家庭でも学校でも、今まで通りの生活ができない状態が続いています。

そのような中、図書室には新しい本がたくさん入りました。どんどん図書室に来て、心を落ち着かせるような読書と、本との出会いを楽しんでください。

虫の音を聞きながら、虫の本はいかが？

『ぼくは昆虫カメラマン　小さな命を見つめて』　　新開孝：写真・文

著者の新開さんは中学生の時に、皆さんの一年生の教科書に載っている、ヘルマン・ヘッセの『少年の日の思い出』という短編小説を読んで、昆虫に興味を持ちました。ですから中学生の頃は、蝶の絵を描いたり、図鑑を眺めたりしたそうです。この本では、人里の自然に普通に見られる昆虫たちの営みを、写真と文章で伝えています。

『素数ゼミの謎』　　吉村仁：著

セミが元気に鳴く季節は過ぎてしまいましたが、アメリカの東部・南部には、体が２～３ｃｍしかないセミがいます。そのセミは１３年、あるいは１７年に１度だけ大量発生し、数週間だけすごい声で鳴き死んでしまいます。なぜこんなに長い間かけて成虫になるのか？なぜ、いっぺんに同じ場所で大発生するのか？不思議なセミの謎とは？

『変身』　　フランツ・カフカ：著

ある朝、平凡なセールスマンのグレゴール・ザムザが不安な夢から覚めてみると、自分の体が一匹の大きな褐色の毒虫に変わってしまっていることに気づきました。理由もなければ原因もわからない。その日から、虫のザムザと家族の奇妙な生活が始まります。

J.D.サリンジャー　生誕100年

『ライ麦畑でつかまえて』『フラニーとゾーイー』などの作品が広く知られているアメリカ合衆国の作家。

『キャッチャー・イン・ザ・ライ』　　J.D.サリンジャー：著　村上春樹：訳

『ライ麦畑でつかまえて』という作品名で知っている人も多いと思います。１６歳のホールデンが目標を失い、学校も友達もいやになり、ニューヨークの街をさまよいます。「何がしたいか、何になりたいのかわからない」という若者に共感を呼んでいる作品です。

この本、読んでみませんか？　　（図書委員　暁仁さんおすすめ）

『キノの旅』　　**時雨沢恵一：著**

皆さんも「いつか旅をしてみたい」「日本ではないどこかの景色を見てみたい」と思ったことがあるのではないでしょうか。この本は、人間のキノと、人間の言葉を話すことができる二輪車のエルメスが、いろいろな国を旅する物語です。その時々のキノやエルメスの感情が細かく書かれていて、一緒に旅をしたような気持になります。また、今まで気付かなかった、新しい何かがみえてきて、とても面白い本です。誰でも楽しめるので、読んだことがない人は、ぜひ読んでみてください。